

令和元年度医療的ケア児等の実態把握に係る調査結果概要

1. 調査概要

(1) 目的

近年、人工呼吸器を装着している障害児その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児（以下、医療的ケア児等という。）が増加傾向にあるものの、県内の医療的ケア児等の総数やその実態について把握できていない状況を踏まえ、医療的ケア児等やその保護者が地域で安心して暮らしていけるよう支援者の専門性の向上や地域での支援体制の構築等、必要な施策を行うための基礎資料とするため、医療的ケア児等の数やその状況、支援ニーズの調査を行う。

(2) 対象者

令和元年12月1日時点で県内に在住する0歳から18歳の児童のうち、以下の医療的ケアを行っているもの（長期（6ヶ月以上）に入院・入所している児童を除く。）

- ①経管栄養②中心静脈栄養③自己腹膜灌流（自分の腹膜で人工透析する療法）④気管切開
- ⑤人工呼吸器装着 ⑥導尿（自己導尿・尿バルーン留置カテーテル含む。）⑦酸素補充療法
- ⑧口腔・鼻腔内などの吸引 ⑨人工肛門

(3) 調査方法

「調査対象者」に示す医療的ケア児等については、年齢等に応じて、一定、関係機関が把握しているものと想定していることから、県立学校、私立幼・小・中・高校、滋賀大教育学部付属特別支援学校、市町障害児福祉主管課、市町保健衛生所管課、市町保育所管課、市町教育所管課を通じて保護者等に調査依頼を行った。

(4) 回答数

287件

2. 調査結果の概要

(1) 年齢内訳

回答者（287人）の年齢の内訳は、多い順に「3歳」が26人、「4歳」と「12歳」が21人、「5歳」が20人であった。

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	合計
人数	8	17	18	26	21	20	18	10	14	11	19	17	21	11	9	13	11	18	5	287

(2) 居住地内訳

回答者の居住市町は、多い順に、「大津市」68人、「草津市」33人、「東近江市」28人であり、概ね人口比に準ずる割合であった。

市町	大津市	彦根市	長浜市	近江八幡市	草津市	守山市	栗東市	甲賀市	野洲市	湖南市	高島市	東近江市	米原市	日野町	竜王町	愛荘町	豊郷町	甲良町	多賀町	合計
人数	68	17	18	22	33	25	14	18	9	10	6	28	7	7	0	0	4	1	0	287

(3) 医療的ケアの内容別内訳

回答者の「必要な医療的ケアの内容」の内訳は、多い順に「経管栄養」が191人、「口腔・鼻腔内などの吸引」168人、「酸素補充療法」96人であった。回答者に、「自己腹膜灌流」の該当者はいなかった。

医療的ケアの内容	経管栄養	中心静脈栄養	自己腹膜灌流	気管切開	人工呼吸器装着	導尿	酸素補充療法	口腔・鼻腔内などの吸引	人工肛門	その他
人数	191	4	0	76	95	50	96	168	5	8

(4) 独立歩行の可否の内訳

回答者のうち「独立歩行が可能」である回答者の割合は、可能が22%(62人)に対して、不可能が78%(225人)であった。

独立歩行の可否		
可能	62	22%
不可能	225	78%
合計	287	

(5) 重心認定の有無の内訳

回答者のうち「重心認定を受けている」回答者の割合は、有りが56%(162人)、無しが44%(125人)で、を受けているの方がやや多かった。

重心認定の有無		
有	162	56%
無	125	44%
合計	287	

(6) 利用サービスの内訳

回答者のうち「利用しているサービス」の内訳は、多い順に「日中活動系障害福祉サービス」が59.6%(171人)、「訪問看護ステーション」が51.2%(147人)、「短期入所、レスパイト入院」が47.4%(137人)となった。

	こども園、保育園、幼稚園	日中活動系の障害福祉サービス	在宅系の障害福祉サービス	短期入所、レスパイト入院	訪問看護ステーション	訪問診療 ※歯科受診を除く。	その他
合計	46	171	97	137	147	59	56
n=287	16.0%	59.6%	33.8%	47.7%	51.2%	20.6%	19.5%

(7) 住居の近くで体調が悪い時に相談できる医師の有無の内訳

回答者のうち、「住居の近くで体調が悪い時に相談できる医師がいる」回答者の割合は、有りが59%(168人)、無しが41%(118人)で、相談できる医師がいる回答者のほうがやや多かった。

相談できる医師の有無		
有	168	58.5%
無	118	41.1%
未記入	1	0.3%
合計	287	

(8) 困りごとや不安に思っていることの内訳

回答者の「困りごとや不安に思っていること」の内訳は、多い順に、「災害時の対応」46%(132人)、「一時的に預ってくれるサービス」42.5%(122人)、「移動や送迎サービス」38.7%(105人)となっている。

困りごとの内容	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	122	111	69	88	49	48	105	132	30
(n=287)	42.5%	38.7%	24.0%	30.7%	17.1%	16.7%	36.6%	46.0%	10.5%

令和元年度医療的ケア児等の実態把握に係る調査結果

目次

○年齢別医療的ケア児数	P.1
○市町・圏域別医療的ケア児数	P.1
1. 市町別回答者数	
2. 圏域別回答者数×年齢	
○医療的ケアの内容別回答者数	P.2
1. 医療的ケアの内容×年齢	
2. 医療的ケアの内容×圏域	
3. 医療的ケアの内容の重複	
《参考》複数の医療的ケア	
○独立歩行の可否	P.6
1. 独立歩行の可否×年齢	
2. 独立歩行の可否×圏域	
3. 独立歩行の可否×医療的ケアの内容	
4. 独立歩行の可否×医療的ケア該当項目数	
5. 独立歩行の可否×利用サービス	
○重心認定の有無	P.8
1. 重心認定の有無×年齢	
2. 重心認定の有無×圏域	
3. 重心認定の有無×医療的ケアの内容	
4. 重心認定の有無×医療的ケア該当項目数	
5. 重心認定の有無×利用サービス	
《参考》動ける医ケア児・重心児	

○利用サービス別内訳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.11

1. 利用サービス別内訳×年齢
2. 利用サービス別内訳×圏域
3. 利用サービス別内訳×医療的ケアの内容

○住居の近くで体調が悪い時に相談できる医師の有無・・・・・・・・ P.17

1. 相談できる医師の有無×年齢
2. 相談できる医師の有無×圏域
3. 相談できる医師の有無×医療的ケアの内容

○困りごとや不安に思っていること別内訳・・・・・・・・・・・・・・・・ P.19

1. 困りごとや不安に思っていること×年齢
2. 困りごとや不安に思っていること×圏域
3. 困りごとや不安に思っていること×医療的ケアの内容
4. 困りごとや不安に思っていること×独立歩行の可否
5. 困りごとや不安に思っていること×重心認定の有無

○自由意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P.25

≪資料≫

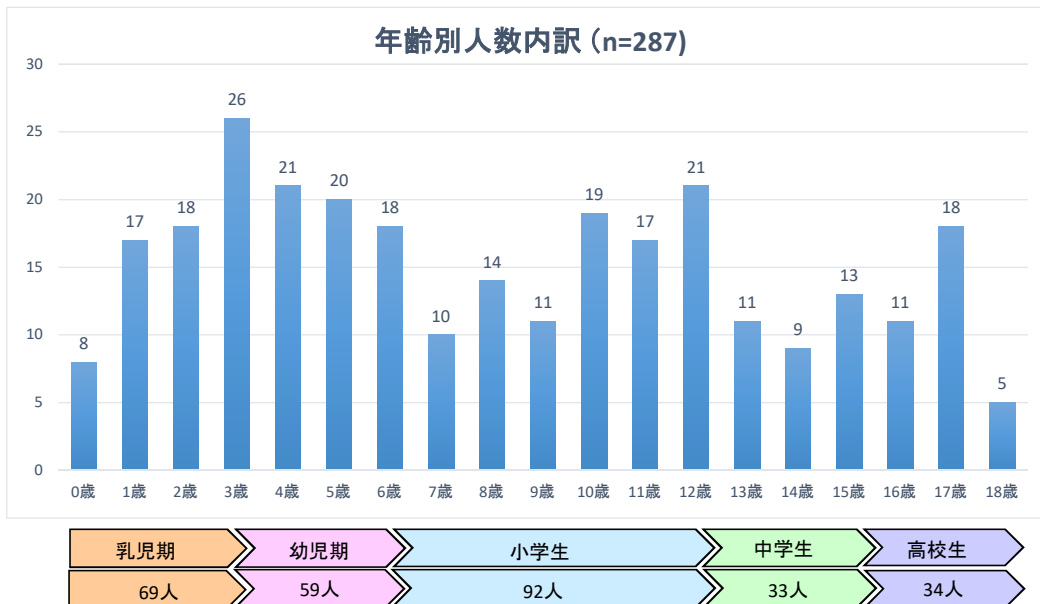
医療的ケア児等の実態把握に係る調査要領

令和元年度医療的ケア児等の実態把握に係る調査結果

○年齢別医療的ケア児数

- ・回答者の年齢の内訳は、多い順に3歳が26人、4歳と12歳が12人、5歳が20人であった。
- ・ライフステージごとの内訳は、多い順に小学生年代が92人、次に乳児期が69人、幼児期が59人であった。

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	合計
人数	8	17	18	26	21	20	18	10	14	11	19	17	21	11	9	13	11	18	5	287
	乳児期			幼児期			小学校						中学校			高校				
	69人			59人			92人						33人			34人				

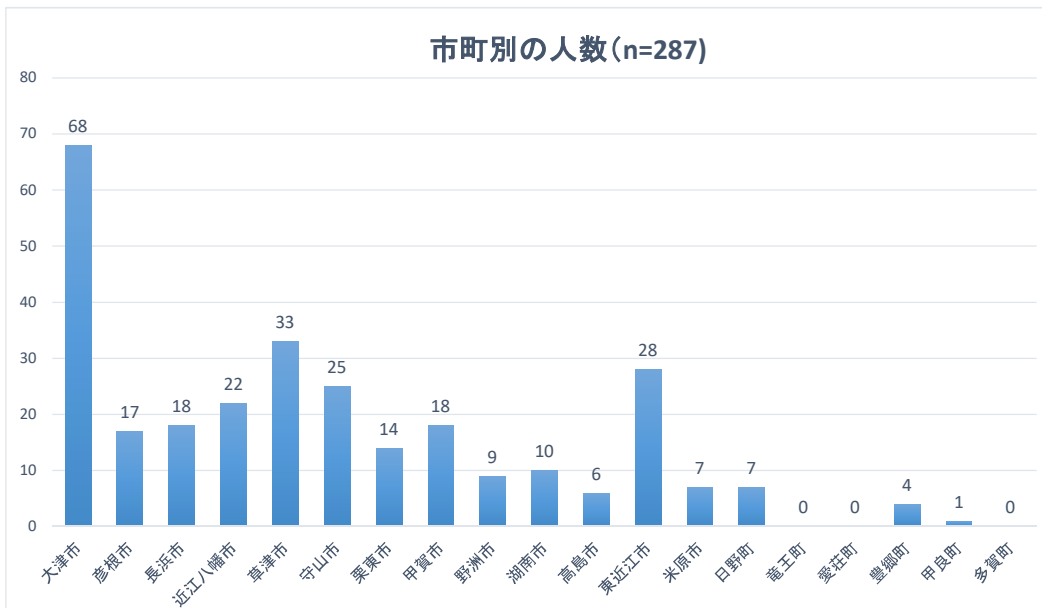


○市町・圏域別の医療的ケア児数

1、市町別回答者数

- ・多い順に、大津市68人、草津市33人、東近江市28人、守山市25人、近江八幡市22人となった。
- ・自治体人口が、大津市、草津市、長浜市、彦根市、東近江市、甲賀市、守山市、近江八幡市の順であることから、概ね人口比に準ずる割合であった。

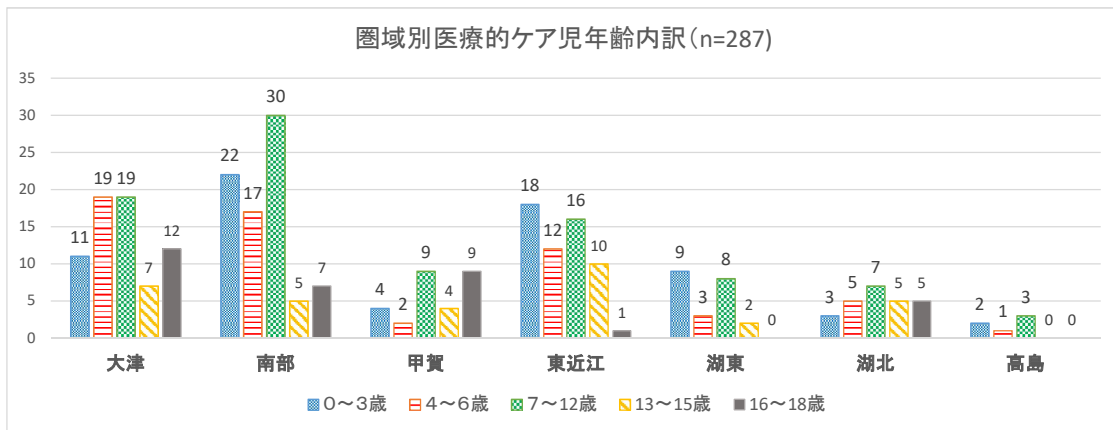
市町	大津市	彦根市	長浜市	近江八幡市	草津市	守山市	栗東市	甲賀市	野洲市	湖南市	高島市	東近江市	米原市	日野町	竜王町	愛荘町	豊郷町	甲良町	多賀町	合計
人数	68	17	18	22	33	25	14	18	9	10	6	28	7	7	0	0	4	1	0	287



2、圏域別回答者数×年齢

- ・圏域ごとに、回答者の多い年代が異なっていた。
- ・大津圏域は幼児期・小学生年代（各19人）、南部圏域は小学生年代（30人）、甲賀圏域は小学生高校生年代（9人）、東近江圏域が乳児期（18人）、湖東圏域は乳児期（9人）、湖北圏域は小学生年代（7人）、高島圏域は小学生年代（3人）であった。

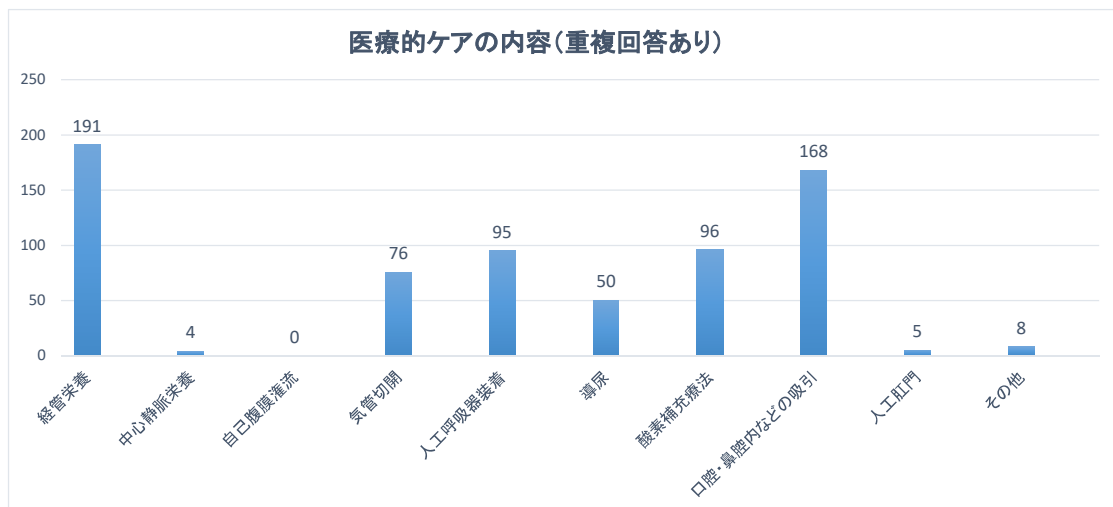
	0～3歳	4～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	合計
	乳児期	幼児期	小学生	中学生	高校生	
大津	11	19	19	7	12	68
南部	22	17	30	5	7	81
甲賀	4	2	9	4	9	28
東近江	18	12	16	10	1	57
湖東	9	3	8	2	0	22
湖北	3	5	7	5	5	25
高島	2	1	3	0	0	6
小計	69	59	92	33	34	287



○医療的ケアの内容別回答者数(重複回答あり)

- ・多い順に、経管栄養が191人、口腔・鼻腔内などの吸引168人、酸素補充療法96人であった。
- ・回答者に、自己腹膜灌流の該当者はいなかった。

医療的ケアの内容	経管栄養	中心静脈栄養	自己腹膜灌流	気管切開	人工呼吸器装着	導尿	酸素補充療法	口腔・鼻腔内などの吸引	人工肛門	その他
人数	191	4	0	76	95	50	96	168	5	8



1、医療的ケアの内容×年齢

・医療的ケアの内容のうち、ほとんどの項目で小学生年代の回答者が最も多くなっているが、酸素補充療法（32.3%）、人工肛門（60%）については、乳児期の回答者が最も多くなった。

	0～3歳 乳児期	4～6歳 幼児期	7～12歳 小学生	13～15歳 中学生	16～18歳 高校生	合計	割合 (n=287)
経管栄養	41 21.5%	34 17.8%	66 34.6%	24 12.6%	26 13.6%	191	66.6%
中心静脈 栄養	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	4	1.4%
自己腹膜 灌流	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0	0.0%
気管切開	16 21.1%	18 23.7%	22 28.9%	10 13.2%	10 13.2%	76	26.5%
人工呼吸 器装着	21 22.1%	19 20.0%	32 33.7%	7 7.4%	16 16.8%	95	33.1%
導尿	2 4.0%	16 32.0%	18 36.0%	8 16.0%	6 12.0%	50	17.4%
酸素補充 療法	31 32.3%	18 18.8%	29 30.2%	8 8.3%	10 10.4%	96	33.4%
口腔・鼻腔内 などの吸引	30 17.9%	30 17.9%	56 33.3%	28 16.7%	24 14.3%	168	58.5%
人工肛門	3 60.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%	5	1.7%
その他	4 50.0%	2 25.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	8	2.8%

※その他には、食道ろうう(1名)、浣腸(1名)、血糖値測定(1名)、回答無しを含む。

(1)医療的ケアの内容×年齢(乳児期 0～3歳) (n=69)

・多い順に、経管栄養(59.4%)、吸引(43.5%)、酸素補充療法(44.9%)となっている。

	経管栄養	中心静脈 栄養	自己腹膜 灌流	気管切開	人工呼吸 器装着	導尿	酸素補充 療法	口腔・鼻 腔内など の吸引	人工肛門	その他
人数	41	0	0	16	21	2	31	30	3	4
割合	59.4%	0.0%	0.0%	23.2%	30.4%	2.9%	44.9%	43.5%	4.3%	5.8%

(2)医療的ケアの内容×年齢(幼児期 4～6歳) (n=59)

・多い順に、経管栄養(57.6%)、吸引(50.8%)、人工呼吸器装着(32.2%)となっている。

	経管栄養	中心静脈 栄養	自己腹膜 灌流	気管切開	人工呼吸 器装着	導尿	酸素補充 療法	口腔・鼻 腔内など の吸引	人工肛門	その他
人数	34	0	0	18	19	16	18	30	0	2
割合	57.6%	0.0%	0.0%	30.5%	32.2%	27.1%	30.5%	50.8%	0.0%	3.4%

(3)医療的ケアの内容×年齢(小学生 7～12歳) (n=92)

・多い順に、経管栄養(71.7%)、吸引(60.9%)、人工呼吸器装着(34.8%)となっている。

	経管栄養	中心静脈 栄養	自己腹膜 灌流	気管切開	人工呼吸 器装着	導尿	酸素補充 療法	口腔・鼻 腔内など の吸引	人工肛門	その他
人数	66	1	0	22	32	18	29	56	0	0
割合	71.7%	1.1%	0.0%	23.9%	34.8%	19.6%	31.5%	60.9%	0.0%	0.0%

(4)医療的ケアの内容×年齢(中学生 13～15歳) (n=33)

・多い順に、吸引(84.8%)、酸素補充療法(72.7%)、気管切開(30.3%)となっている。

	経管栄養	中心静脈 栄養	自己腹膜 灌流	気管切開	人工呼吸 器装着	導尿	酸素補充 療法	口腔・鼻 腔内など の吸引	人工肛門	その他
人数	24	1	0	10	7	8	8	28	1	1
割合	72.7%	3.0%	0.0%	30.3%	21.2%	24.2%	24.2%	84.8%	3.0%	3.0%

(5) 医療的ケアの内容×年齢(高校生 16~18歳)(n=34)

・多い順に、経管栄養(76.5%)、吸引(70.6%)、人工呼吸器装着(47.1%)となっている。

	経管栄養	中心静脈栄養	自己腹膜灌流	気管切開	人工呼吸器装着	導尿	酸素補充療法	口腔・鼻腔内などの吸引	人工肛門	その他
人数	26	2	0	10	16	6	10	24	1	1
割合	76.5%	5.9%	0.0%	29.4%	47.1%	17.6%	29.4%	70.6%	2.9%	2.9%

2、医療的ケアの内容×圏域

・ほとんどの圏域で、医療的ケアの内容のうち最も回答者が多いのが「経管栄養」であったが、南部圏域と高島圏域は、「口腔・鼻腔内などの吸引」が最も多くなった。

圏域	大津	南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島
回答者数	68	81	28	57	22	25	6
経管栄養	50 73.5%	47 58.0%	17 60.7%	38 66.7%	19 86.4%	16 64.0%	4 66.7%
中心静脈栄養	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%	2 3.5%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%
自己腹膜灌流	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
気管切開	25 36.8%	25 30.9%	7 25.0%	9 15.8%	4 18.2%	5 20.0%	1 16.7%
人工呼吸器装着	29 42.6%	28 34.6%	12 42.9%	15 26.3%	4 18.2%	5 20.0%	2 33.3%
導尿	15 22.1%	14 17.3%	7 25.0%	8 14.0%	2 9.1%	4 16.0%	0 0.0%
酸素補充療法	32 47.1%	21 25.9%	7 25.0%	18 31.6%	8 36.4%	9 36.0%	1 16.7%
口腔・鼻腔内などの吸引	43 63.2%	48 59.3%	14 50.0%	32 56.1%	12 54.5%	14 56.0%	5 83.3%
人工肛門	0 0.0%	1 1.2%	1 3.6%	1 1.8%	1 4.5%	1 4.0%	0 0.0%
その他	0 0.0%	3 3.7%	1 3.6%	3 5.3%	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%

3、医療的ケアの内容の重複(重複回答あり)

・複数の医療的ケアが必要であると回答した利用者が多かった。
 ・経過栄養、口腔鼻腔内などの吸引と重複的な医療的ケアが必要な回答者が多かった。

	経管栄養	中心静脈栄養	自己腹膜灌流	気管切開	人工呼吸器装着	導尿	酸素補充療法	口腔・鼻腔内などの吸引	人工肛門
経管栄養	191	3 1.6%	0 0.0%	64 33.5%	80 41.9%	22 11.5%	62 32.5%	145 75.9%	2 1.0%
中心静脈栄養	4	3 75.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	2 50.0%	2 50.0%	4 100.0%	0 0.0%
自己腹膜灌流	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
気管切開	76	64 84.2%	2 2.6%	0 0.0%	60 78.9%	14 18.4%	36 47.4%	69 90.8%	1 1.3%
人工呼吸器装着	95	80 84.2%	2 2.1%	0 0.0%	60 63.2%	15 15.8%	48 50.5%	82 86.3%	0 0.0%
導尿	50	22 44.0%	2 4.0%	0 0.0%	14 28.0%	15 30.0%	11 22.0%	21 42.0%	0 0.0%
酸素補充療法	96	62 64.6%	2 1.0%	0 0.0%	36 18.8%	48 25.1%	11 5.8%	57 29.8%	1 0.5%
口腔・鼻腔内などの吸引	168	145 86.3%	4 2.4%	0 0.0%	69 41.1%	82 48.8%	21 12.5%	57 33.9%	1 0.6%
人工肛門	5	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	1 20.0%

《参考》複数の医療的ケア

1、医療的ケア該当項目数内訳

- ・該当項目が1個の回答者が最も多かった。
- ・2個以上の項目に該当する回答者が、1個以下の項目に該当する回答者より多かった。
- ・最も多い該当項目数は7個であった。

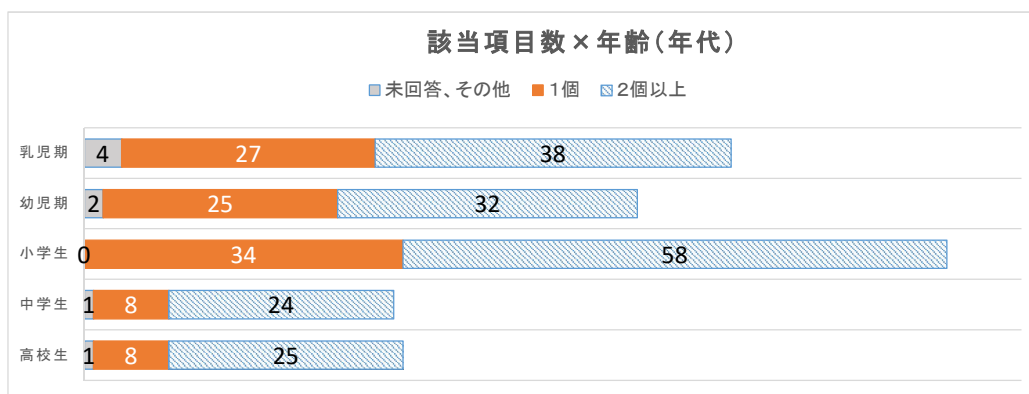
重複回答数	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個	合計
該当者数 (n=287)	8	102	63	44	35	26	8	1	0	0	287

※0個は、回答無しと調査項目として示した項目以外を回答した方

2、該当項目数×年齢

- ・ほとんどの年代で、該当項目数が1個の回答者が多かった。
- ・年齢が高くなるにつれて、該当項目数が多い回答者の割合が高くなった。

年齢	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個
0～3歳 (n=69)	4 5.8%	27 39.1%	15 21.7%	11 15.9%	7 10.1%	4 5.8%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
4～6歳 (n=59)	2 3.4%	25 42.4%	10 16.9%	8 13.6%	6 10.2%	6 10.2%	2 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
7～12歳 (n=92)	0 0.0%	34 37.0%	22 23.9%	13 14.1%	11 12.0%	9 9.8%	3 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
13～15歳 (n=33)	1 3.0%	8 24.2%	9 27.3%	6 18.2%	5 15.2%	2 6.1%	1 3.0%	1 3.0%	0 0.0%	0 0.0%
16～18歳 (n=34)	1 2.9%	8 23.5%	7 20.6%	6 17.6%	6 17.6%	5 14.7%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%



3、該当項目数×圏域

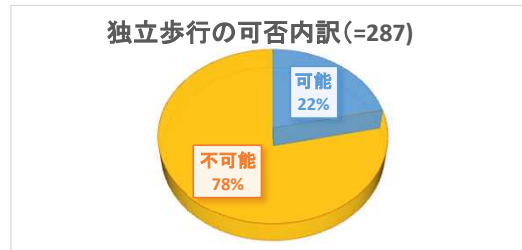
- ・すべての圏域で、該当項目が1個の回答者が最も多かった。
- ・すべての圏域で、該当項目が2個以上の回答者のほうが多かった。

年齢	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個
大津 (n=68)	0 0.0%	21 30.9%	12 17.6%	11 16.2%	8 11.8%	12 17.6%	4 5.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
南部 (n=81)	3 3.7%	29 35.8%	19 23.5%	10 12.3%	13 16.0%	6 7.4%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
甲賀 (n=28)	1 3.6%	12 42.9%	2 7.1%	7 25.0%	3 10.7%	2 7.1%	1 3.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
東近江 (n=57)	3 5.3%	19 33.3%	18 31.6%	7 12.3%	6 10.5%	2 3.5%	1 1.8%	1 1.8%	0 0.0%	0 0.0%
湖東 (n=22)	0 0.0%	10 45.5%	5 22.7%	2 9.1%	1 4.5%	3 13.6%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
湖北 (n=25)	1 4.0%	9 36.0%	5 20.0%	6 24.0%	3 12.0%	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
高島 (n=6)	0 0.0%	2 33.3%	2 33.3%	1 16.7%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

○独立歩行の可否

・独立歩行が可能なの割合は、可能と回答した人が22%に対して、不可能であると回答した人が78%であった。

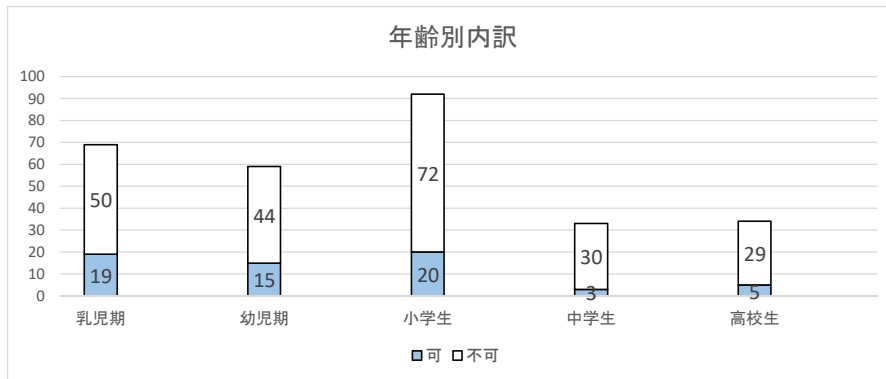
独立歩行の可否	
可能	62 22%
不可能	225 78%
合計	287



1、独立歩行の可否×年齢

・独立歩行の可否について、年齢が高くなるにつれて可能であると回答した者の割合が低くなっている。(中学生→高校生は除く)

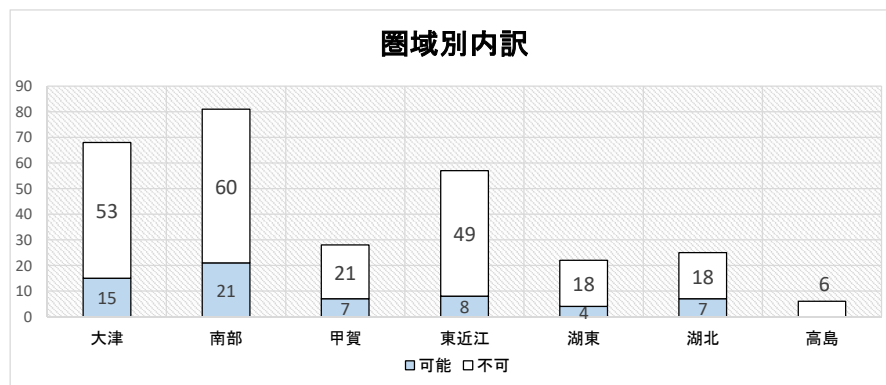
	0～3歳 乳児期	4～6歳 幼児期	7～12歳 小学生	13～15歳 中学生	16～18歳 高校生	合計
可能	19 27.5%	15 25.4%	20 21.7%	3 9.1%	5 14.7%	62 —
不可能	50 72.5%	44 74.6%	72 78.3%	30 90.9%	29 85.3%	225 —



2、独立歩行の可否×圏域

・すべての圏域で独立歩行が不可能であると回答した者の割合が7割以上であった。

圏域	大津	南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島
回答者数	68	81	28	57	22	25	6
可能 n=66	15 22.1%	21 25.9%	7 25.0%	8 14.0%	4 18.2%	7 28.0%	0 0.0%
不可能 n=225	53 77.9%	60 74.1%	21 75.0%	49 86.0%	18 81.8%	18 72.0%	6 100.0%



3、独立歩行の可否 × 医療的ケアの内容

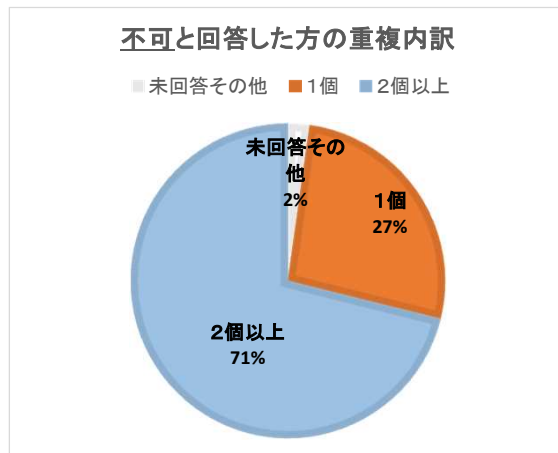
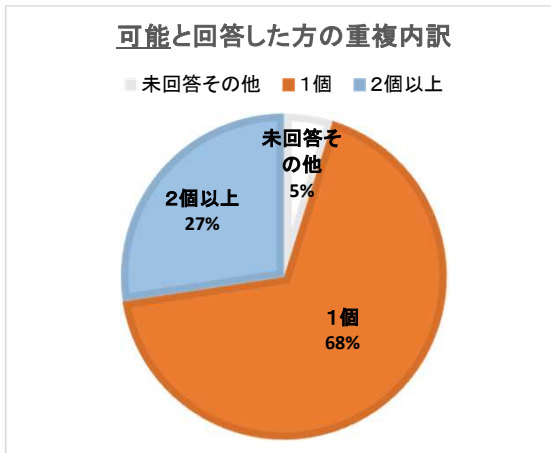
- ・独立歩行が可能であると回答した者のうち最も多い医療的ケアの内容は、酸素補充療法であった（45.2%）。
- ・独立歩行が不可能であると回答した者のうち最も多い医療的ケアの内容は、経管栄養であった。（77.8%）

	経管栄養 (191)	中心静脈 栄養 (4)	自己腹膜 灌流 (0)	気管切開 (76)	人工呼吸 器装着 (95)	導尿 (50)	酸素補充 療法 (96)	口腔・鼻 腔内など の吸引 (168)	人工肛門 (5)	その他 (8)
可能 n=66	16 25.8%	0 0.0%	0 0.0%	8 12.9%	7 11.3%	11 17.7%	28 45.2%	14 22.6%	1 1.6%	3 4.5%
不可能 n=225	175 77.8%	4 1.8%	0 0.0%	68 30.2%	88 39.1%	29 12.9%	68 30.2%	154 68.4%	4 1.8%	5 2.2%

4、独立歩行の可否 × 医療的ケア該当項目数

- ・独立歩行の可否にかかわらず、該当項目が1個の回答者が多かった。
- ・独立歩行が可能な回答者は該当項目が1個が半数以上であるのに対し、不可能である回答者は該当項目が2個以上である回答者が半数以上であった。

年齢	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個
回答者数	8	102	63	44	35	26	8	1	0	0
可能 n=66	3 4.5%	42 63.6%	10 15.2%	5 7.6%	2 3.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
不可能 n=225	5 2.2%	60 26.7%	53 23.6%	39 17.3%	33 14.7%	26 11.6%	8 3.6%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%



5、独立歩行の可否 × 利用サービス

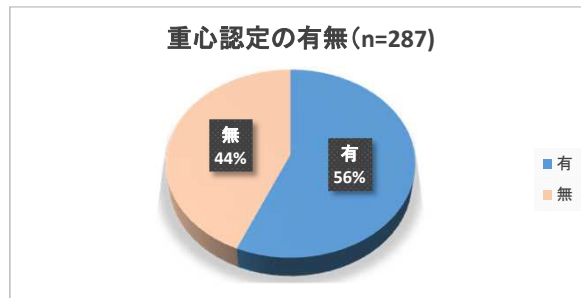
- ・独立歩行が可能であると回答した者の利用サービスは、多い順に保育園等（35.5%）、日中活動系の障害福祉サービス（32.3%）、訪問看護ステーション（29%）であった。
- ・独立歩行が不可能であると回答した者の利用サービスは、多い順に、日中活動系の障害福祉サービス（67.1%）、レスパイト入院（57.8%）、訪問看護ステーション（57.3%）であった。

	子ども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
可能 n=66	22 35.5%	20 32.3%	5 8.1%	7 11.3%	18 29.0%	2 3.2%	0 0.0%
不可能 n=225	24 10.7%	151 67.1%	92 40.9%	130 57.8%	129 57.3%	57 25.3%	0 0.0%

○重心認定の有無

・重心認定を受けている者の割合は、有りが56%、無しが44%で、受けているの方がやや多かった。

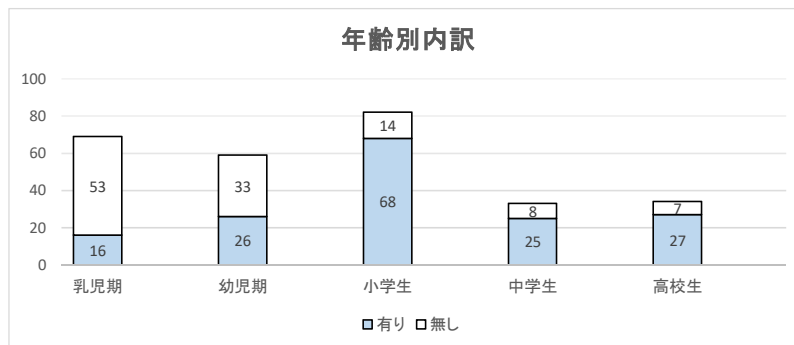
重心認定の有無		
有	162	56%
無	125	44%
合計	287	



1、重心認定の有無×年齢

・重心認定の有無について、乳幼児期の重心認定を受けている者の割合が低かった。（乳児期23.19%、幼児期44.07%）

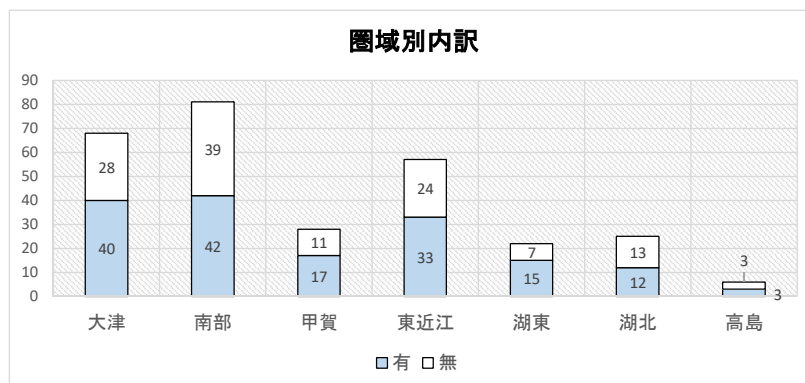
	0～3歳 乳児期	4～6歳 幼児期	7～12歳 小学生	13～15歳 中学生	16～18歳 高校生	合計
有り	16 23.2%	26 44.1%	68 73.9%	25 75.8%	27 79.4%	162
無し	53 76.8%	33 55.9%	14 15.2%	8 24.2%	7 20.6%	115



2、重心認定の有無×圏域

・湖北圏域を除くすべての圏域で重心認定を受けている回答者の割合の方が高かった。

圏域	大津	南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島
回答者数	68	81	28	57	22	25	6
有り n=162	40 58.8%	42 51.9%	17 60.7%	33 57.9%	15 68.2%	12 48.0%	3 50.0%
無し n=115	28 41.2%	39 48.1%	11 39.3%	24 42.1%	7 31.8%	13 52.0%	3 50.0%



3、重心認定の有無×医療的ケアの内容

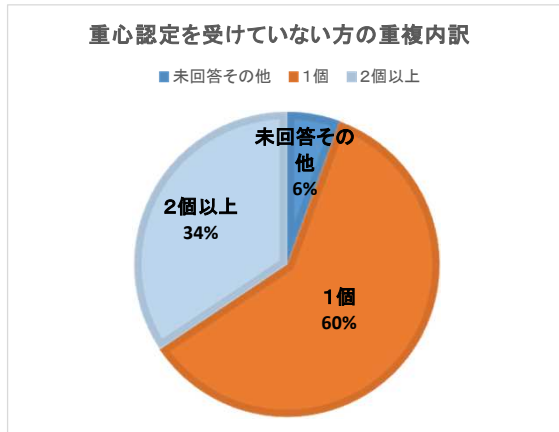
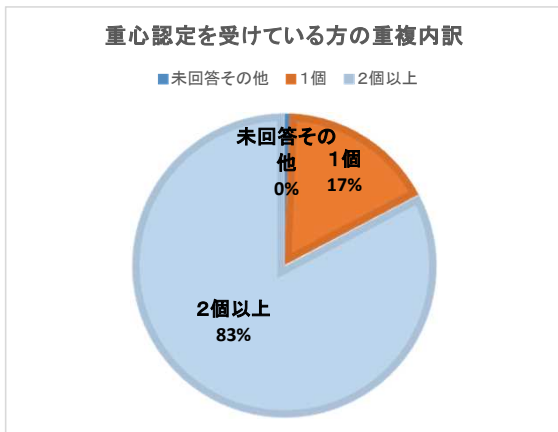
- ・重心認定の有無にかかわらず最も多い医療的ケアの内容は、経管栄養であった。
- ・ほとんどの医ケアで重心認定を受けている回答者の割合が高いが、人工肛門、その他については重心認定を受けていない回答者の割合の方が多かった。

	経管栄養 (191)	中心静脈 栄養 (4)	自己腹膜 灌流 (0)	気管切開 (76)	人工呼吸 器装着 (95)	導尿 (50)	酸素補充 療法 (96)	口腔・鼻 腔内など の吸引 (168)	人工肛門 (5)	その他 (8)
有り (n=162)	143 88.3%	4 2.5%	0 0.0%	56 34.6%	74 45.7%	25 15.4%	50 30.9%	128 79.0%	1 0.6%	1 0.6%
無し (n=125)	48 38.4%	0 0.0%	0 0.0%	20 8.9%	21 9.3%	25 11.1%	46 20.4%	40 17.8%	4 1.8%	7 5.6%

4、重心認定の有無×重複項目数

- ・重心認定を受けている回答者の重複項目数は2個が最も多かった（29%）。受けていない回答者は1個が最も多かった（60%）。
- ・重心認定を受けている回答者は重複項目2個以上が半数以上であるのに対し、受けていない回答者は重複項目が1個である回答者が半数以上であった。

年齢	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個
回答者数	8	102	63	44	35	26	8	1	0	0
有り (n=162)	1 0.6%	27 16.7%	47 29.0%	29 17.9%	26 16.0%	24 14.8%	7 4.3%	1 0.6%	0 0.0%	0 0.0%
無し (n=125)	7 5.6%	75 60.0%	16 12.8%	15 12.0%	9 7.2%	2 1.6%	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%



5、重心認定の有無×利用サービス

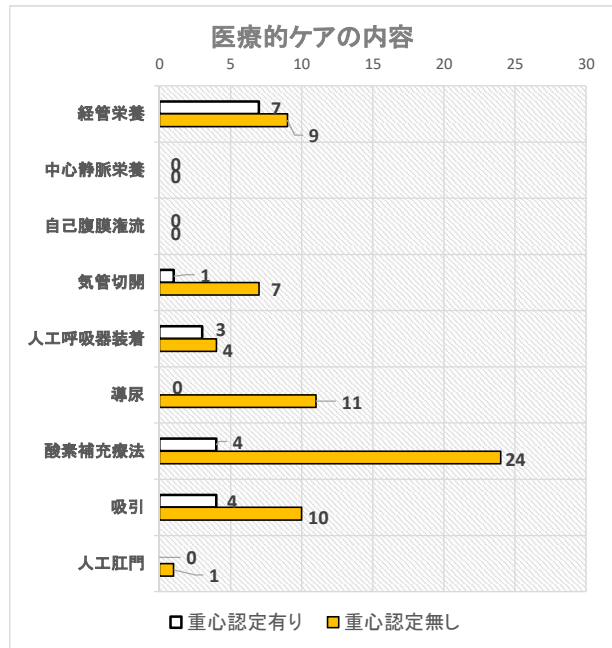
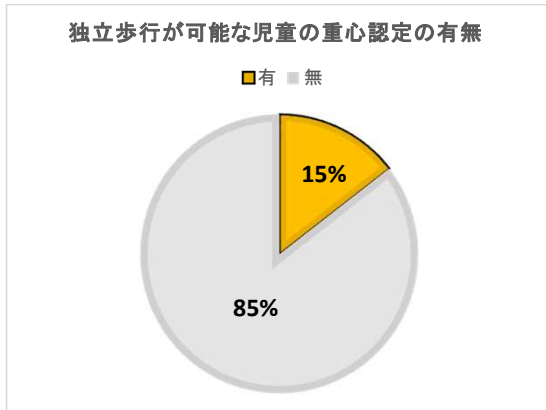
- ・重心認定を受けている回答者の利用サービスは、多い順に、日中活動系の障害福祉サービス（79.6%）、レスパイト入院（72.8%）、訪問看護ステーション（59.3%）であった。
- ・重心認定を受けていない回答者の利用サービスは、多い順に、訪問看護ステーション（40.8%）、日中活動系の障害福祉サービス（33.6%）、こども園等（28%）であった。

	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
有り (n=162)	11 6.8%	129 79.6%	84 51.9%	118 72.8%	96 59.3%	47 29.0%	0 0.0%
無し (n=125)	35 28.0%	42 33.6%	13 10.4%	19 15.2%	51 40.8%	12 9.6%	0 0.0%

《参考》動ける医ケア児・重心児

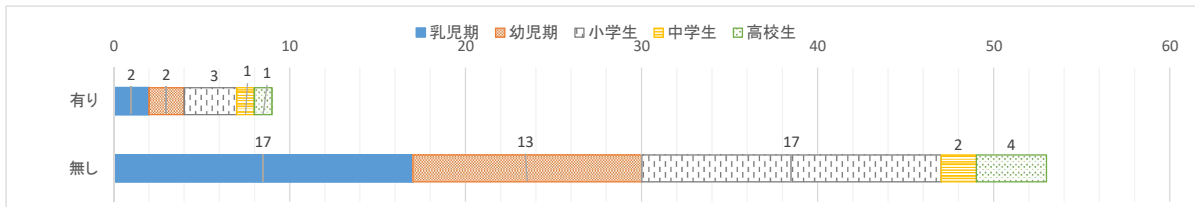
- ・独立歩行が可能な回答者のうち、重心認定を受けている回答者は15%であった。
- ・独立歩行が可能な回答者の医療的ケアの内容は、酸素補充療法が最も多かった。
- ・日中活動系サービスの利用率が、重心認定の有無で大きく差があった。

独立歩行が可能な児童の重心認定の有無		
有	9	15%
無	53	85%
合計	62	



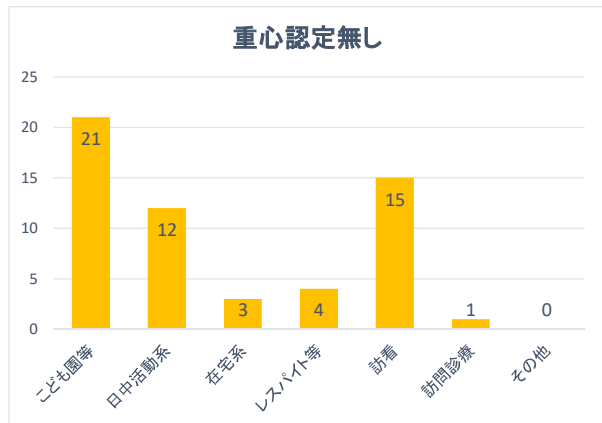
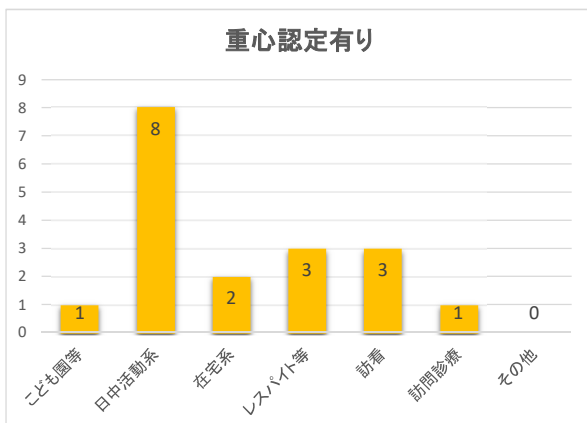
*年齢

	0～3歳 乳児期	4～6歳 幼児期	7～12歳 小学生	13～15歳 中学生	16～18歳 高校生	合計
有り (n=9)	2 22.2%	2 22.2%	3 33.3%	1 11.1%	1 11.1%	9
無し (n=53)	17 32.1%	13 24.5%	17 32.1%	2 3.8%	4 7.5%	53



*利用サービス(重複回答あり)

	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
有り (n=9)	1 11.1%	8 88.9%	2 22.2%	3 33.3%	3 33.3%	1 11.1%	0 0.0%
無し (n=53)	21 39.6%	12 22.6%	3 5.7%	4 7.5%	15 28.3%	1 1.9%	0 0.0%



○利用サービス別内訳(重複回答有り)

- ・回答者の利用サービスは多い順に、日中活動系障害福祉サービス(59.6%)、訪問看護ステーション(51.2%)、レスパイト等(47.4%)となった。

	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
合計	46	171	97	137	147	59	56
n = 287	16.0%	59.6%	33.8%	47.7%	51.2%	20.6%	19.5%

※その他の内容としては、訪問リハビリ、訪問入浴サービス、自立支援医療等

1、利用サービス×年齢

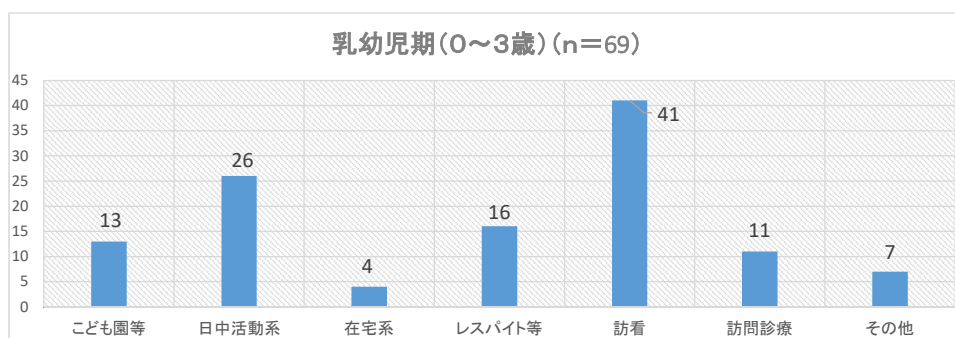
- ・幼児期～中学生年代は、日中活動系の障害福祉サービスの利用が最も多くなっている。(約70%)
- ・乳児期は、訪問看護ステーションの利用が最も多くなっている。(59.4%)
- ・高校生年代は、短期入所レスパイト入院の利用が最も多くなっている。(70.6%)

年齢	人数	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
0～3歳 乳児期	69	13	26	4	16	41	11	7
		18.8%	37.7%	5.8%	23.2%	59.4%	15.9%	10.1%
4～6歳 幼児期	59	33	36	13	22	35	11	9
		55.9%	61.0%	22.0%	37.3%	59.3%	18.6%	15.3%
7～12歳 小学生	92	—	64	45	54	38	23	21
		—	69.6%	48.9%	58.7%	41.3%	25.0%	22.8%
13～15歳 中学生	33	—	25	19	21	13	6	12
		—	75.8%	57.6%	63.6%	39.4%	18.2%	36.4%
16～18歳 高校生	34	—	20	16	24	20	8	5
		—	58.8%	47.1%	70.6%	58.8%	23.5%	14.7%

(1)利用サービス×年齢(乳児期 0～3歳) (n=69)

- ・多い順に、訪問看護ステーション(59.4%)、日中活動系サービス(37.7%)、レスパイト(23.2%)となっている。

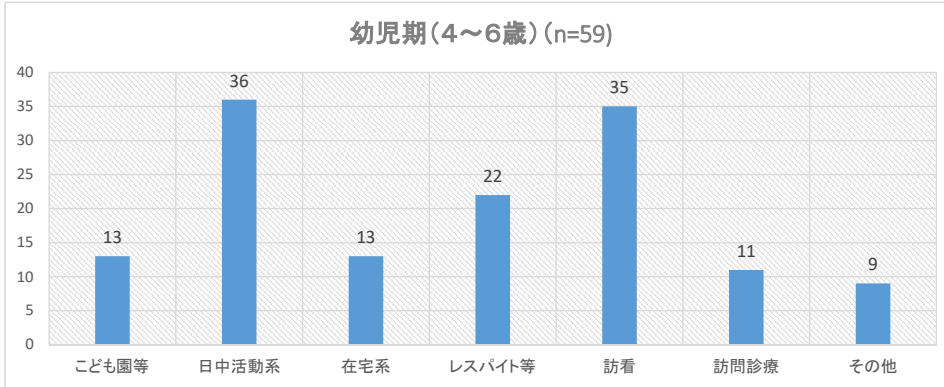
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	13	26	4	16	41	11	7
割合	18.8%	37.7%	5.8%	23.2%	59.4%	15.9%	10.1%



(2) 医療的ケアの内容×年齢(幼児期 4～6歳) (n=59)

・多い順に、日中活動系サービス(61%)、こども園等(55.9%)、訪看(59.3%)となっている。

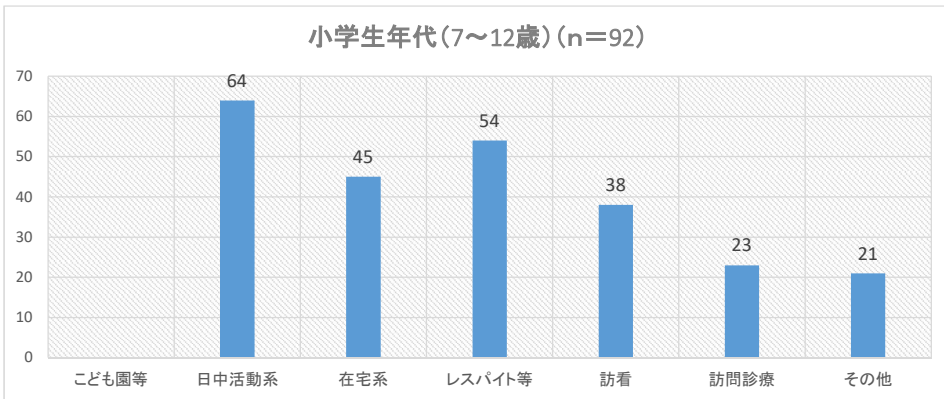
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	33	36	13	22	35	11	9
割合	55.9%	61.0%	22.0%	37.3%	59.3%	18.6%	15.3%



(3) 医療的ケアの内容×年齢(小学生 7～12歳) (n=92)

・多い順に、日中活動系サービス(69.6%)、レスパイト(58.7%)、在宅系(48.9%)となっている。

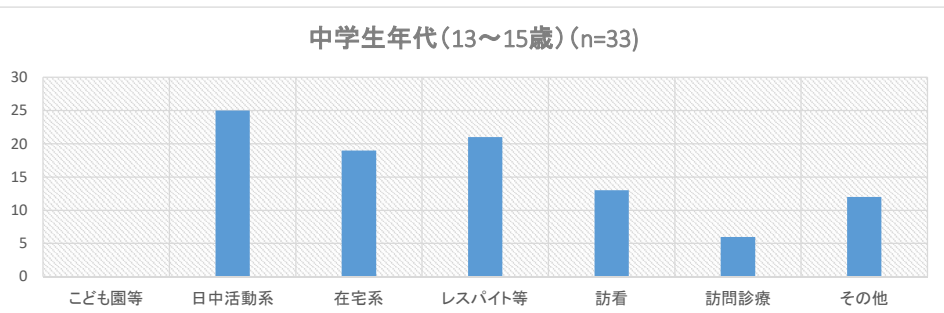
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	—	64	45	54	38	23	21
割合	—	69.6%	48.9%	58.7%	41.3%	25.0%	22.8%



(4) 医療的ケアの内容×年齢(中学生 13～15歳) (n=33)

・多い順に、日中活動系サービス(75.8%)、レスパイト(63.6%)、在宅系(57.6%)となっている。

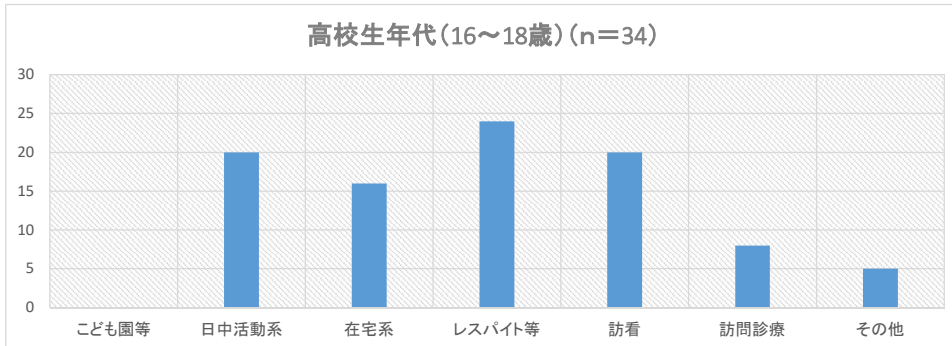
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	—	25	19	21	13	6	12
割合	—	75.8%	57.6%	63.6%	39.4%	18.2%	36.4%



(5) 医療的ケアの内容×年齢(高校生 16~18歳)(n=34)

・多い順に、レスパイト(70.6%)、日中活動系サービス(58.8%)、訪看(58.8%)となっている。

	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	—	20	16	24	20	8	5
割合	—	58.8%	47.1%	70.6%	58.8%	23.5%	14.7%



2、利用サービス×圏域

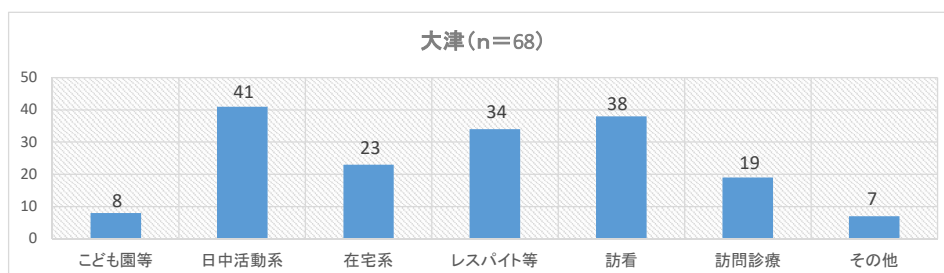
・ほとんどの圏域で、日中活動系の障害福祉サービスの利用者が最も多くなっている。
・湖東・高島圏域については、訪問看護ステーションの利用者が最も多かった。

医ケアの 内容	人数	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
大津	68	8	41	23	34	38	19	7
		11.8%	60.3%	33.8%	50.0%	55.9%	27.9%	10.3%
南部	81	14	45	25	35	41	14	12
		17.3%	55.6%	30.9%	43.2%	50.6%	17.3%	14.8%
甲賀	28	4	14	5	12	10	5	1
		14.3%	50.0%	17.9%	42.9%	35.7%	17.9%	3.6%
東近江	57	11	35	29	33	24	9	22
		19.3%	61.4%	50.9%	57.9%	42.1%	15.8%	38.6%
湖東	22	3	17	5	7	17	6	7
		13.6%	77.3%	22.7%	31.8%	77.3%	27.3%	31.8%
湖北	25	5	15	8	11	11	4	2
		20.0%	60.0%	32.0%	44.0%	44.0%	16.0%	8.0%
高島	6	1	4	2	5	6	2	2
		16.7%	66.7%	33.3%	83.3%	100.0%	33.3%	33.3%

(1) 利用サービス×圏域(大津)(n=68)

・多い順に、日中活動系サービス(60.3%)、訪問看護ステーション(55.9%)レスパイト(50.0%)となってい
る。

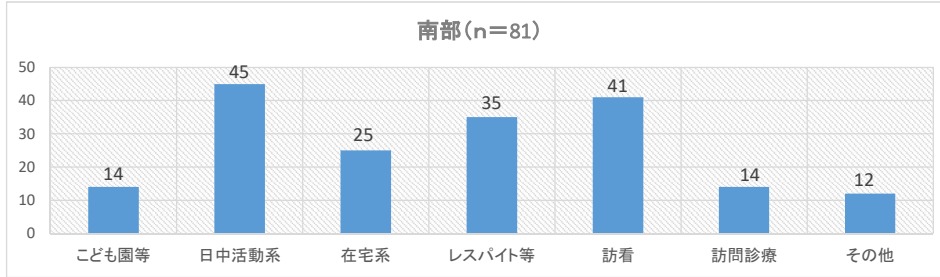
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	8	41	23	34	38	19	7
割合	11.8%	60.3%	33.8%	50.0%	55.9%	27.9%	10.3%



(2)利用サービス×圏域(南部) (n=81)

・多い順に、日中活動系サービス(55.6%)、訪問看護ステーション(50.6%)レスパイト(43.2%)となっている。

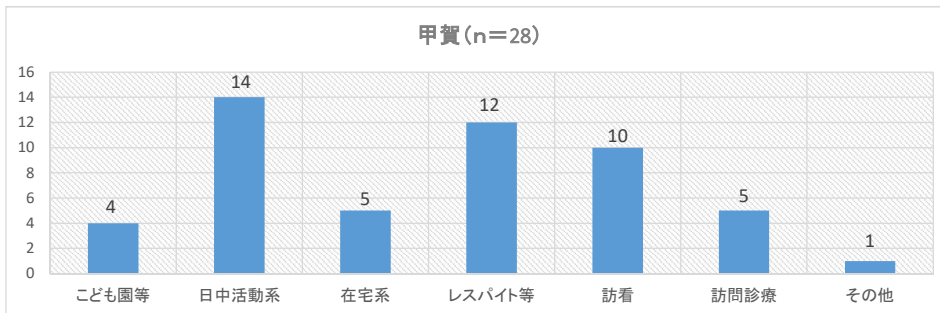
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	14	45	25	35	41	14	12
割合	17.3%	55.6%	30.9%	43.2%	50.6%	17.3%	14.8%



(3)利用サービス×圏域(甲賀) (n=28)

・多い順に、日中活動系サービス(50.0%)、レスパイト(50.0%)、訪問看護ステーション(35.7%)となっている。

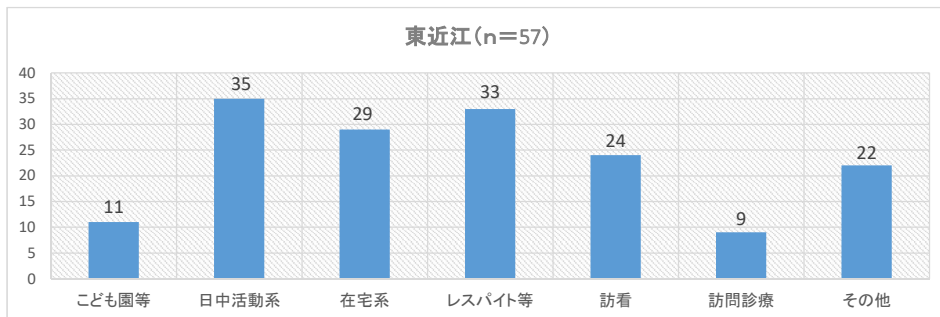
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	4	14	5	12	10	5	1
割合	14.3%	50.0%	17.9%	42.9%	35.7%	17.9%	3.6%



(4)利用サービス×圏域(東近江) (n=57)

・多い順に、日中活動系サービス(61.4%)、レスパイト(57.9%)、在宅系サービス(50.9%)となっている。

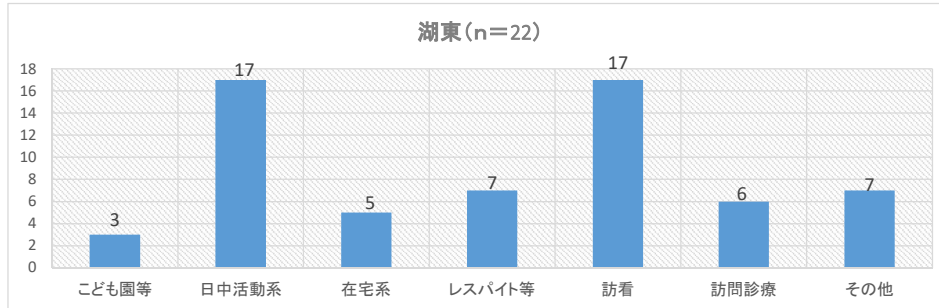
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	11	35	29	33	24	9	22
割合	19.3%	61.4%	50.9%	57.9%	42.1%	15.8%	38.6%



(5)利用サービス×圏域(湖東) (n=22)

・多い順に、日中活動系サービス(77.3%)、訪問看護ステーション(77.3%)レスパイト(31.8%)となっている。

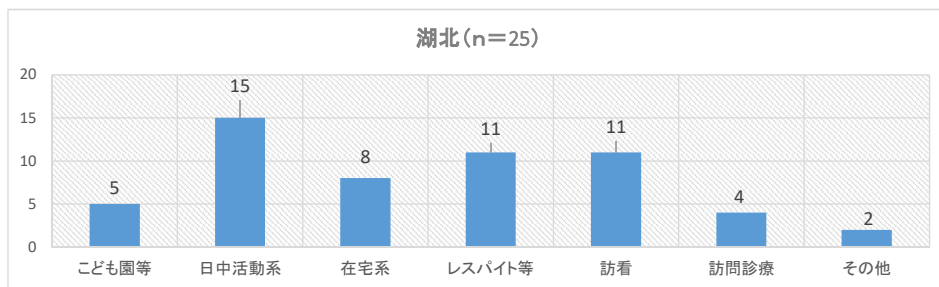
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	3	17	5	7	17	6	7
割合	13.6%	77.3%	22.7%	31.8%	77.3%	27.3%	31.8%



(6)利用サービス×圏域(湖北) (n=25)

・多い順に、日中活動系サービス(60%)、訪問看護ステーション(44%)、レスパイト(44%)となっている。

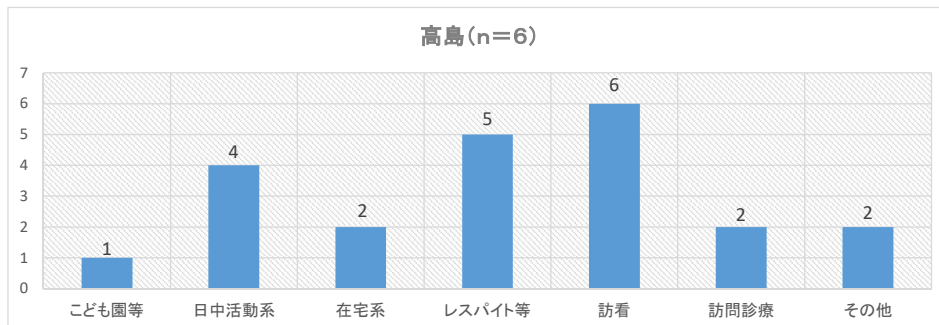
	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	5	15	8	11	11	4	2
割合	20.0%	60.0%	32.0%	44.0%	44.0%	16.0%	8.0%



(7)利用サービス×圏域(高島) (n=6)

・多い順に、訪問看護ステーション(100%)、レスパイト(83.3%)、日中活動系サービス(66.7%)となっている。

	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
人数	1	4	2	5	6	2	2
割合	16.7%	66.7%	33.3%	83.3%	100.0%	33.3%	33.3%



3、利用サービス×医療的ケアの内容(重複回答有り)

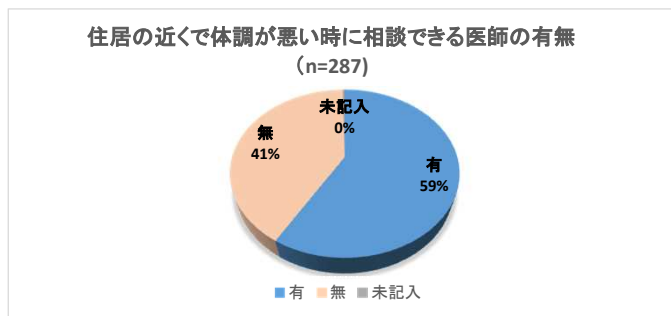
・ほとんどの医療的ケアで、訪問看護ステーションの利用が最も多くなっている。

医ケアの内容	人数	こども園、 保育園、幼 稚園	日中活動系 の障害福祉 サービス	在宅系の障 害福祉サー ビス	短期入所、 レスパイト 入院	訪問看護ス テーション	訪問診療 ※歯科受診 を除く。	その他
経管栄養	191	10	58	39	55	58	26	
		5.2%	30.4%	20.4%	28.8%	30.4%	13.6%	0.0%
中心静脈 栄養	4	0	2	1	2	2	1	
		0.0%	50.0%	25.0%	50.0%	50.0%	25.0%	0.0%
自己腹膜 灌流	0	—	—	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—
気管切開	76	5	27	17	21	35	16	
		6.6%	35.5%	22.4%	27.6%	46.1%	21.1%	0.0%
人工呼吸 器装着	95	5	30	20	29	37	20	
		6.6%	31.6%	21.1%	30.5%	38.9%	21.1%	0.0%
導尿	50	7	12	8	10	10	4	
		14.0%	24.0%	16.0%	20.0%	20.0%	8.0%	0.0%
酸素補充 療法	96	7	21	12	19	29	15	
		7.3%	21.9%	12.5%	19.8%	30.2%	15.6%	0.0%
口腔・鼻 腔内など の吸引	168	11	61	38	54	55	26	
		6.5%	36.3%	22.6%	32.1%	32.7%	15.5%	0.0%
人工肛門	5	5	0	0	0	1	0	
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%

○住居の近くで体調が悪い時に相談できる医師の有無

・住居の近くで体調が悪い時に相談できる医師の有無の割合は、有りが59%、無しが41%で、医師がいる者のほうがやや多かった。

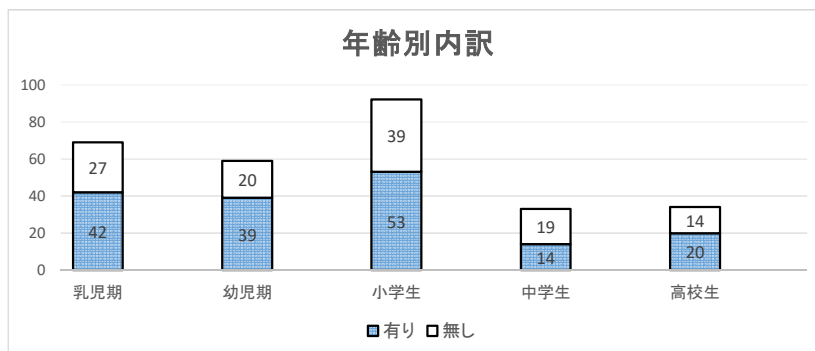
相談できる医師の有無		
有	168	58.5%
無	118	41.1%
未記入	1	0.3%
合計	287	



1、相談できる医師の有無×年齢

・相談できる医師の有無について、中学生年代を除き6割程度が医師がいると回答している。

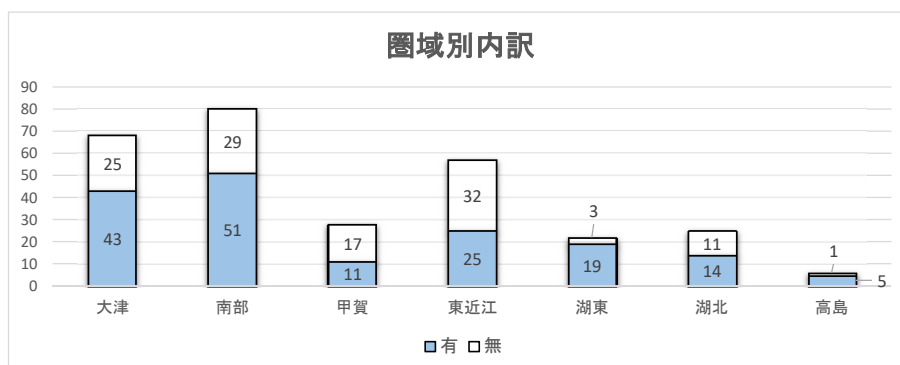
	0～3歳 乳児期	4～6歳 幼児期	7～12歳 小学生	13～15歳 中学生	16～18歳 高校生	合計
	69	59	92	33	34	
有り	42 60.9%	39 66.1%	53 57.6%	14 42.4%	20 58.8%	168 —
無し	27 39.1%	20 33.9%	39 42.4%	19 57.6%	14 41.2%	119 —



2、相談できる医師の有無×圏域

・大津、南部、湖東、高島圏域は、6割以上が相談できる医師がいると回答した一方で、甲賀、東近江は6割程度が相談できる医師がいないと回答している。

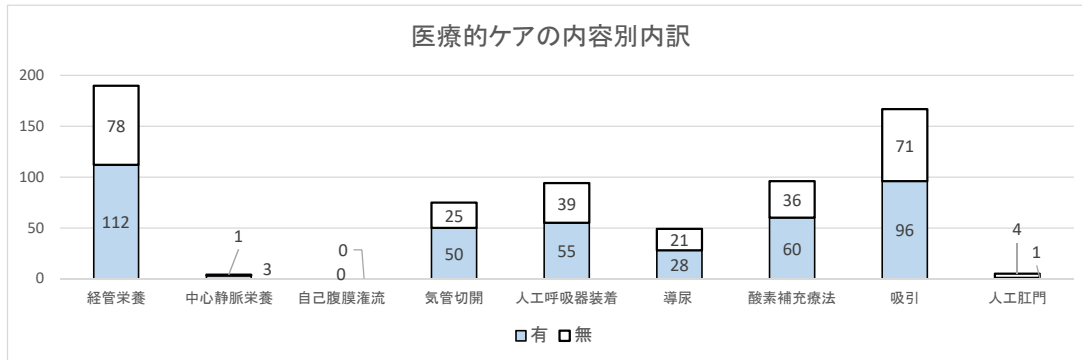
	大津	南部	甲賀	東近江	湖東	湖北	高島	合計
	68	81	28	57	22	25	6	
有り	43 63.2%	51 63.0%	11 39.3%	25 43.9%	19 86.4%	14 56.0%	5 83.3%	168 —
無し	25 36.8%	29 35.8%	17 60.7%	32 56.1%	3 13.6%	11 44.0%	1 16.7%	118 —
未記入		1						1



3、相談できる医師の有無 × 医療的ケアの内容

・医療的ケアの内容のうち、中心静脈栄養の回答者が相談できる医師がいると回答した者が75%である一方で、人工肛門の回答者の80%が相談できる医師がないと回答している。

	経管栄養 (191)	中心静脈 栄養 (4)	自己腹膜 灌流 (0)	気管切開 (76)	人工呼吸 器装着 (95)	導尿 (50)	酸素補充 療法 (96)	口腔・鼻 腔内など の吸引 (168)	人工肛門 (5)
有り	112 58.6%	3 75.0%	0 0.0%	50 65.8%	55 57.9%	28 56.0%	60 62.5%	96 57.1%	1 20.0%
無し	78 40.8%	1 25.0%	0 0.0%	25 32.9%	39 41.1%	21 42.0%	36 37.5%	71 42.3%	4 80.0%



○困りごとや不安に思っていること別の人数(重複回答あり)

- ・回答者が多い順に、災害時の対応(46%)、一時的に預ってくれるサービス(42.5%)、移動や送迎サービス(38.7%)となっている。

困りごとの内容	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	122	111	69	88	49	48	105	132	30
(n=287)	42.5%	38.7%	24.0%	30.7%	17.1%	16.7%	36.6%	46.0%	10.5%

1、困りごとや不安に思っていること×年齢

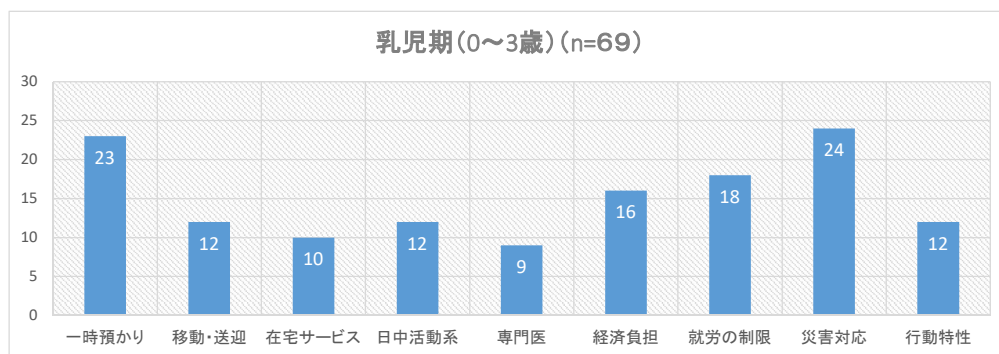
- ・乳児期、幼児期が、災害時の対応の回答者が最も多くなっている。(それぞれ34.8%、55.9%)
- ・小学生年代は、一時的に預かってくれるサービスの回答者が最も多くなっている。(48.91%)
- ・中学生年代、高校生年代は、移動・送迎サービスの回答者が最も多くなっている。(それぞれ48.5%、55.9%)

年齢	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
0～3歳 乳児期	69	23	12	10	12	9	16	18	24	12
		33.3%	17.4%	14.5%	17.4%	13.0%	23.2%	26.1%	34.8%	17.4%
4～6歳 幼児期	59	25	23	12	14	12	7	25	33	6
		42.4%	39.0%	20.3%	23.7%	20.3%	11.9%	42.4%	55.9%	10.2%
7～12歳 小学生	92	45	41	28	36	17	13	35	43	8
		48.91%	44.57%	30.43%	39.13%	18.48%	14.13%	38.04%	46.74%	8.70%
13～15歳 中学生	33	15	16	9	15	6	5	12	15	1
		45.5%	48.5%	27.3%	45.5%	18.2%	15.2%	36.4%	45.5%	3.0%
16～18歳 高校生	34	14	19	10	11	5	7	15	17	3
		41.2%	55.9%	29.4%	32.4%	14.7%	20.6%	44.1%	50.0%	8.8%

(1)困りごとや不安に思っていること×年齢(乳児期 0～3歳) (n=69)

- ・多い順に、災害対応(34.8%)、一時的に預かってくれるサービス(33.3%)、就労に制限がある(26.1%)となっている。

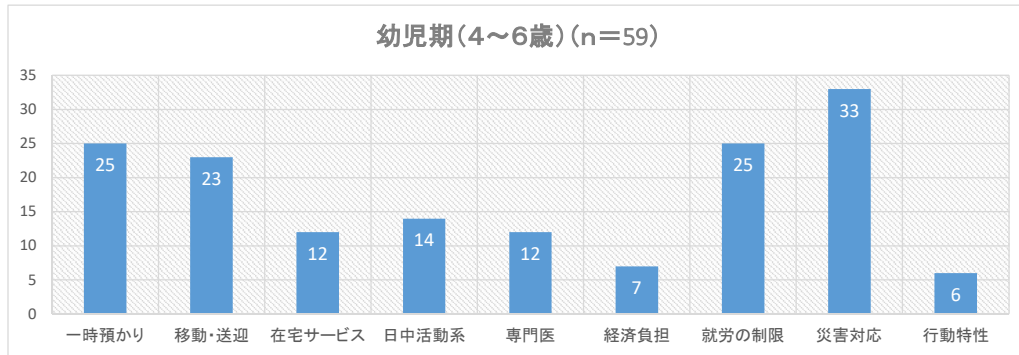
人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	23	12	10	12	9	16	18	24	12
割合	33.3%	17.4%	14.5%	17.4%	13.0%	23.2%	26.1%	34.8%	17.4%



(2) 困りごとや不安に思っていること×年齢(幼児期 4～6歳) (n=59)

・多い順に、災害対応(55.9%)、一時的に預かってくれるサービス、就労に制限がある(42.4%)となっている。

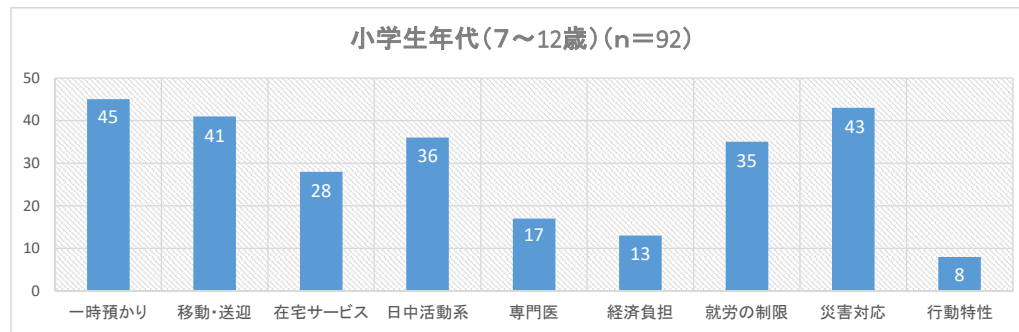
	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	59	25	23	12	14	12	7	25	33	6
割合		42.4%	39.0%	20.3%	23.7%	20.3%	11.9%	42.4%	55.9%	10.2%



(3) 困りごとや不安に思っていること×年齢(小学生 7～12歳) (n=92)

・多い順に、一時的に預かってくれるサービス(48.9%)、災害対応(46.7%)、移動・送迎(44.5%)となっている。

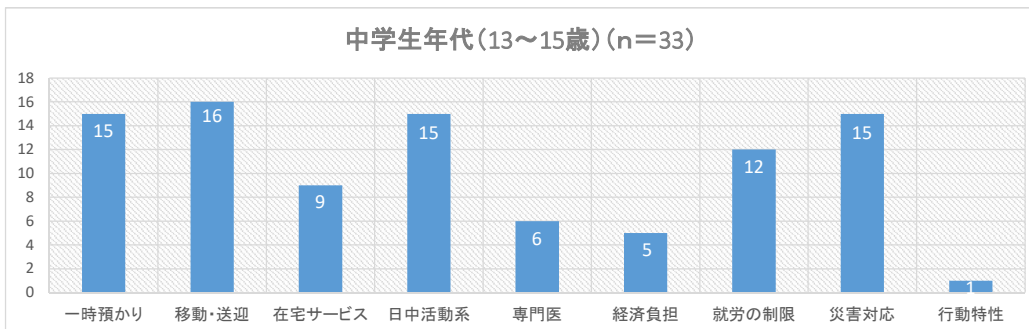
	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	92	45	41	28	36	17	13	35	43	8
割合		48.9%	44.6%	30.4%	39.1%	18.5%	14.1%	38.0%	46.7%	8.7%



(4) 困りごとや不安に思っていること×年齢(中学生 13～15歳) (n=33)

・多い順に、移動・送迎(48.5%)、一時的に預かってくれるサービス、日中サービス、災害対応(45.5%)となっている。

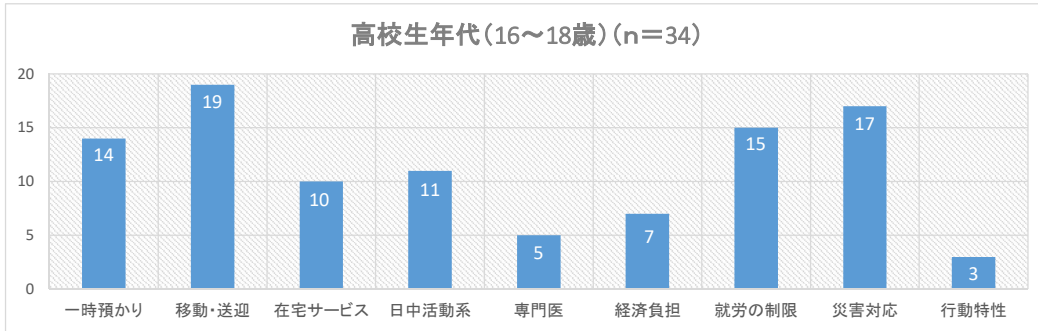
	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	33	15	16	9	15	6	5	12	15	1
割合		45.5%	48.5%	27.3%	45.5%	18.2%	15.2%	36.4%	45.5%	3.0%



(5) 困りごとや不安に思っていること×年齢(高校生 16~18歳)(n=34)

・多い順に、移動・送迎 (55.9%)、災害対応 (50%)、就労制限 (44.1%)となっている。

	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	34	14	19	10	11	5	7	15	17	3
割合		41.2%	55.9%	29.4%	32.4%	14.7%	20.6%	44.1%	50.0%	8.8%



2、困りごとや不安に思っていること×圏域

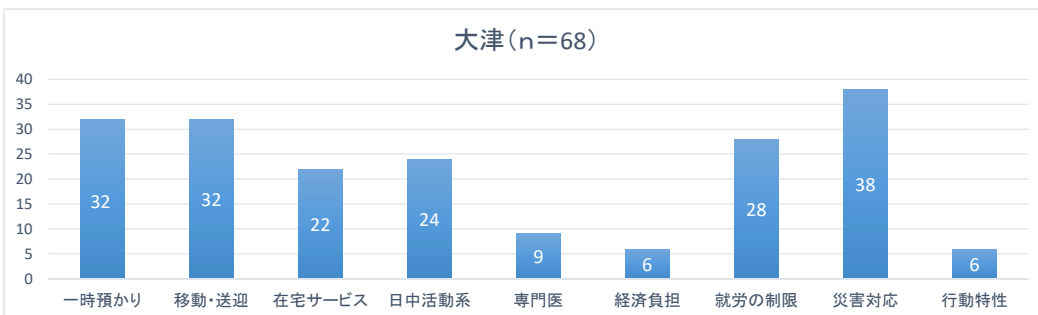
・7圏域中4圏域で、災害時の対応の回答者が最も多くなった。
 ・回答者の多い上位3つの選択肢を、圏域ごとに比較すると、甲賀圏域のみ医療的ケアに対応できる専門医の回答率が高かった。

圏域	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
大津 (n=68)	32	32	22	24	9	6	28	38	6
南部 (n=81)	35	30	15	31	5	16	30	40	9
甲賀 (n=28)	11	11	5	8	9	5	8	10	2
東近江 (n=57)	17	12	11	11	12	7	17	18	7
湖東 (n=22)	10	9	9	9	8	6	10	15	5
湖北 (n=25)	12	13	4	3	4	6	10	8	1
高島 (n=6)	5	4	3	2	2	2	2	3	0

(1) 困りごとや不安に思っていること×圏域(大津) (n=68)

・多い順に、災害対応 (55.9%)、一時的に預かってくれるサービス (47.1%)、移動・送迎 (47.1%)となっている。

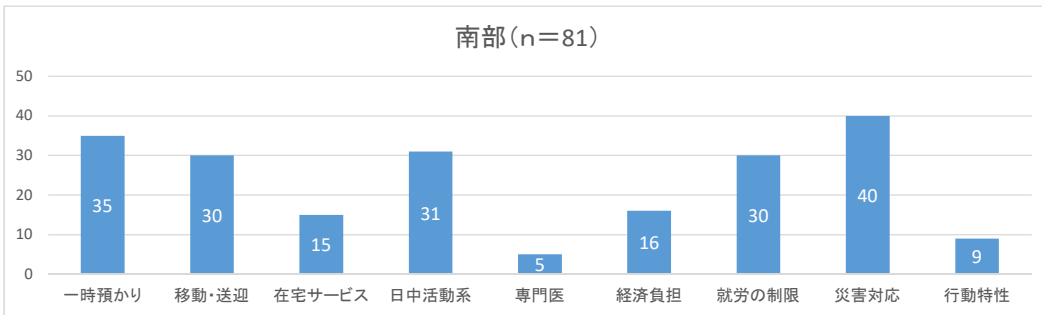
	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	68	32	32	22	24	9	6	28	38	6
割合		47.1%	47.1%	32.4%	35.3%	13.2%	8.8%	41.2%	55.9%	8.8%



(2) 困りごとや不安に思っていること×圏域(南部) (n=81)

・多い順に、災害対応(49.4%)、一時的に預かってくれるサービス(43.2%)、日中サービス(37%)となっている。

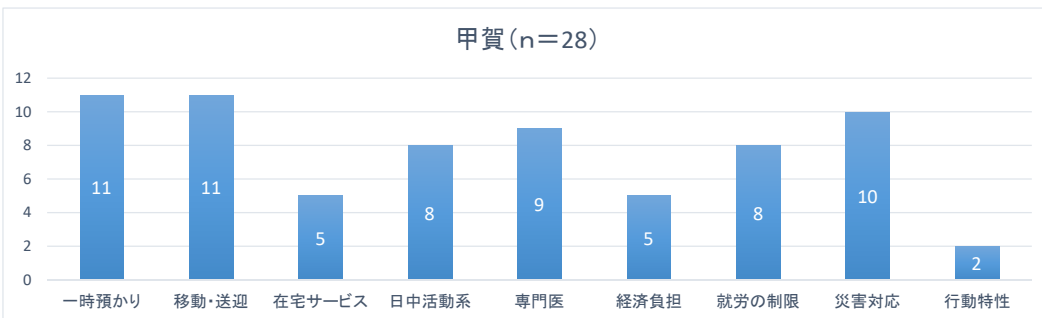
	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	81	35	30	15	31	5	16	30	40	9
割合		43.2%	37.0%	18.5%	38.3%	6.2%	19.8%	37.0%	49.4%	11.1%



(3) 困りごとや不安に思っていること×圏域(甲賀) (n=28)

・多い順に、一時的に預かってくれるサービス(39.3%)、移動・送迎(39.3%)、災害対応(35.7%)となっている。

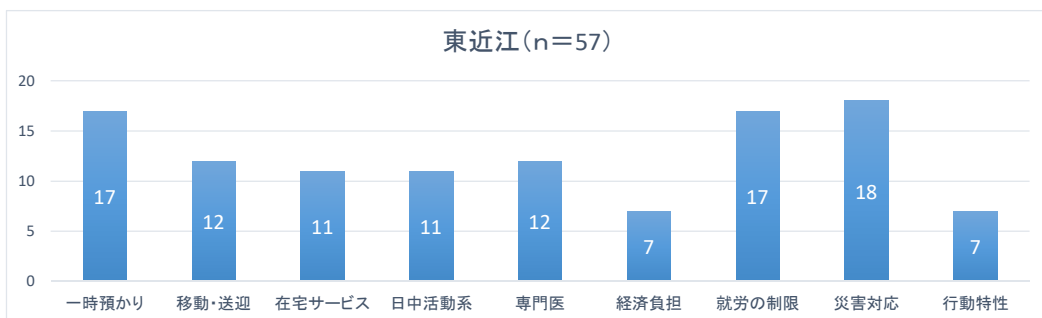
	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	28	11	11	5	8	9	5	8	10	2
割合		39.3%	39.3%	17.9%	28.6%	32.1%	17.9%	28.6%	35.7%	7.1%



(4) 困りごとや不安に思っていること×圏域(東近江) (n=57)

・多い順に、災害対応(31.6%)、一時的に預かってくれるサービス(29.8%)、就労に制限がある(29.8%)となっている。

	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	57	17	12	11	11	12	7	17	18	7
割合		29.8%	21.1%	19.3%	19.3%	21.1%	12.3%	29.8%	31.6%	12.3%



(5) 困りごとや不安に思っていること×圏域(湖東) (n=22)

・多い順に、災害対応(68.2%)、一時的に預かってくれるサービス(45.5%)、就労に制限がある(45.5%)となっている。

	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	22	10	9	9	9	8	6	10	15	5
割合		45.5%	40.9%	40.9%	40.9%	36.4%	27.3%	45.5%	68.2%	22.7%



(6) 困りごとや不安に思っていること×圏域(湖北) (n=25)

・多い順に、移動・送迎(52%)、一時的に預かってくれるサービス(48%)、就労に制限がある(40%)となっている。

	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	25	12	13	4	3	4	6	10	8	1
割合		48.0%	52.0%	16.0%	12.0%	16.0%	24.0%	40.0%	32.0%	4.0%



(7) 困りごとや不安に思っていること×圏域(高島) (n=6)

・多い順に、一時的に預かってくれるサービス(83.3%)、移動・送迎(66.7%)、在宅サービス、災害対応(50%)となっている。

	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応(避難方法や避難先での生活など)	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
人数	6	5	4	3	2	2	2	2	3	0
割合		83.3%	66.7%	50.0%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	50.0%	0.0%



3、困りごとや不安に思っていること×医療的ケアの内容

・ほとんどの医療的ケアで災害時の対応、一時的に預かっていくれるサービス、移動や送迎に係るサービスと回答した者の割合が高かった。

医ケアの内容	人数	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
経管栄養	191	90	90	55	65	33	32	86	93	26
		47.1%	47.1%	28.8%	34.0%	17.3%	16.8%	45.0%	48.7%	13.6%
中心静脈栄養	4	3	3	2	1	1	0	2	2	1
		75.0%	75.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	50.0%	25.0%
自己腹膜灌流	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
気管切開	76	38	42	23	27	9	9	27	41	7
		50.0%	55.3%	30.3%	35.5%	11.8%	11.8%	35.5%	53.9%	9.2%
人工呼吸器装着	95	50	55	32	36	18	17	39	51	9
		52.6%	57.9%	33.7%	37.9%	18.9%	17.9%	41.1%	53.7%	9.5%
導尿	50	19	20	14	20	9	10	19	29	0
		38.0%	40.0%	28.0%	40.0%	18.0%	20.0%	38.0%	58.0%	0.0%
酸素補充療法	96	41	39	28	31	19	22	38	46	11
		42.7%	40.6%	29.2%	32.3%	19.8%	22.9%	39.6%	47.9%	11.5%
口腔・鼻腔内などの吸引	168	92	86	54	66	31	27	78	89	19
		54.8%	51.2%	32.1%	39.3%	18.5%	16.1%	46.4%	53.0%	11.3%
人工肛門	5	1	0	0	0	0	1	0	1	0
		20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%

4、困りごとや不安に思っていること×独立歩行の可否

・独立歩行の可否にかかわらず、災害時の対応の回答者が最も多かった。
・続いて、多いのが一時的に預かってくれるサービスとなった。

	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
可能 (n=66)	27	11	7	17	11	15	20	29	7
	40.9%	16.7%	10.6%	25.8%	16.7%	22.7%	30.3%	43.9%	10.6%
不可能 (n=225)	95	100	62	71	38	33	85	103	23
	42.2%	44.4%	27.6%	31.6%	16.9%	14.7%	37.8%	45.8%	10.2%

5、困りごとや不安に思っていること×重心認定の有無

・重心認定を受けている回答者のうち最も多い回答は、移動や送迎サービスであった（51.9%）。
・重心認定を受けていない回答者のうち最も多い回答は、災害対応であった。（40.8%）

	一時的に預かってくれるサービス	医療的ケアに対応できる移動や送迎に係るサービス	医療的ケアに対応できる在宅系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる日中活動系の障害福祉サービス	医療的ケアに対応できる専門医	経済的負担が大きい	両親や介護者等の就労に制限がある	災害時の対応（避難方法や避難先での生活など）	チューブの自己抜去等、本人の行動特性
有り (n=162)	80	84	50	62	33	24	74	81	20
	49.4%	51.9%	30.9%	38.3%	20.4%	14.8%	45.7%	50.0%	12.3%
無し (n=125)	42	27	19	26	16	24	31	51	10
	33.6%	21.6%	15.2%	20.8%	12.8%	19.2%	24.8%	40.8%	8.0%

○自由意見

- ・いただいた意見について、「サービスに関すること」「保育園、学校生活等に関すること」「保護者就労・負担に関すること」「将来に関すること」「相談窓口に関すること」「行政に関すること」「災害に関すること」「専門医・病院に関すること」「その他」の9項目に分類した。
- ・全体として意見が多かったのは、サービスに関すること、保育園学校生活等に関すること、保護者就労・負担に関することであった。
- ・サービスに関する意見では、一時的に預かってくれるサービス（短期入所入院レスパイト）の不足についての意見が多かった。
- ・保育・学校生活においては、導尿に対応できるかどうかについての意見が多くみられた。

1、サービスの不足に関する意見(50件)

(1)一時的に預かってくれるサービスが欲しい(19件)

- ・レスパイト入院の受け入れをしてくれる病院が自宅圏域にない。
- ・(居住している)市内に一時的に預かってくれる病院などサービスがない。
- ・レスパイト入院の受入はできるようになってきているが、急ぎょ預かってもらいたい時に枠がない。
- ・何かあったときに、安心して利用できるショートステイ先がない。
- ・近年、超重症児が増えているためか、小保レスパイト、びわこ学園ショートステイが利用しづらい。
- ・レスパイト入院の空きがない為、家族の体調不良時等で急に預かりが必要になった際の対応が心配である。

(2)日中活動系のサービスが利用したい(8件)

- ・医療的ケア児に対応してくれる放課後等デイサービスが自宅の近くにない。
- ・いろいろな活動や人と関わりを持てる場があるとありがたい。
- ・圏域に(放課後の時間帯に)医療的ケア児が利用できる日中サービスがない。
- ・医療的ケア児が通える、安心安全な放課後等デイサービスを増やしてほしい。

(3)入浴支援を利用したい(5件)

- ・自宅の浴槽ではなく、預かり施設で入浴させてもらえる所が増えてほしい。
- ・毎日入浴支援を利用できる場所が欲しい。
- ・高齢の方のデイサービスはお風呂があるのに、なぜ児童の施設にはないのか。入浴支援付きの日中サービスがあれば助かる。

(4)移動支援・送迎サービスが欲しい(8件)

- ・月に何回かだけでも送迎利用できたら負担が減って助かる。
- ・日中に車がないため、移動手段に限られてしまう。
- ・学校への送迎がとても負担になっている。渋滞等で送迎時間が長くなる際は心身ともに疲れる。
- ・学校の送迎で移動支援を利用したい。
- ・毎日スクールバスに乗車されている子どもさんのように医ケア児も登校したい日は毎日通学保障してほしい。
- ・通学バスに乗れず家族での送迎が一番負担です。

2、保育園、学校生活に関する意見(20件)

- ・小学校、保育園に看護師がいいため、受け入れが困難であった。
- ・医療的ケアが必要な児童の、受け入れ体制(看護師)が整っている保育園が少ない。
- ・学校生活において緊急時に適切に対応していただけるか不安。
- ・保育園に駐車場がないため、送迎が難しい。
- ・子どもの学校教育の体制を整えてほしい(養護学校と小学校の両方に在籍を認める等)。
- ・医ケア対応には看護師配置が必要なので、施設に定着してもらえるような体制が大事だと思う。責任のある行為だけに、保護者と看護師の信頼関係が大切であると思う。
- ・校外学習や修学旅行に同行してくれる看護師への報酬を世間並みにしてほしい。
- ・修学旅行や校外学習で外から看護師に来てもらう時には、事前の打ち合わせやケアの引継ぎなど何回かしたい。その際の看護師の日給も手当として欲しい。ボランティアの気持ちに頼っていては、続けるのは難しくなると思う。

3、保護者の就労、負担についての意見(23件)

- ・経済的負担も大きいのに十分に働けないので本人、兄弟の将来の進学等が不安。
- ・年齢と共に経済的負担が大きくなるが、主介護者である自分(母親)が就労することは考えられない。
- ・収入を得るとサービス費等の自己負担額が大きくなる。仕事を頑張るとそれだけ支出も大きくなる仕組みが、家庭にとっては負担である。
- ・両親はじめ介護者の負担が大きい。本人、介護者ともに行動の幅が狭くなる。
- ・今は就労できても先の見通しが立たず、なかなか仕事を始めることができない。育児休暇復帰ができない。
- ・学校への送迎、通院等で正規職での就労ができない。会社に迷惑がかかる。
- ・介助に手がかかり、時間の余裕がない。体調の変化により、睡眠不足になる。
- ・就労にも制限があり、思うようには働けない。
- ・医ケアがありすぎて家族で見れるのは両親のみ。家の用事や兄弟の通園の送迎ができない。

4、将来に関すること(11件)

- 高等部卒業後に通える施設が少ない。通えるかどうかの保障がない。
- 将来について漠然とした不安がある。
- 将来、親が面倒を見られなくなった時に利用できるサービスがあるかどうか不安。
- 就労に向けての理解、受入先がない。

5、相談窓口を知りたい、情報交換をしたい(16件)

- 相談窓口が分かりにくい。
- 同じ立場の人と交流したり相談したい。
- サービス（専門医、避難場所等）のことがわからない（知りたい）。

6、行政について(8件)

- 市の保健師にもっとかかわってほしい。
- 市役所の頻繁にいかないといけないので困る。取りに来てもらえるサービスはないか。
- 学校は色々対応してくれているが、県、市などの対応に不安がある。
- 手帳等を取得する時に、1歳になってからではなく子供の状態を見て時期を決めてほしい。
- もう少し、訪問対応して母子に対してケアを受けられたらと思う。
- 幼稚園と小学校で補助が使える枠が違うのはおかしい。
- 病院から退院し在宅ケアに移行する際、行政や病院関係者等が連携して安心して在宅ケアに移行できる社会になってほしい。

7、災害時の対応について(8件)

- 避難計画を立ててもらっても、家から避難所まで母一人の力では連れていくことができない。
- 非常電源の確保が心配。自家発電機高額で負担がある。
- 早めの避難とか呼びかけがあるが、本当に身体の不自由な人や医療的ケア児の過ごせそうな所はない。停電するだけでも生きていけない子供たちは、いったいどうしたら良いのかと悩む。
- 災害の時、経管栄養ですぐに注入したり栄養などの確保できるか不安。吸引など電気関係は確保できるか不安。
- 災害時の物資（栄養剤やペースト食等）が確保できるか不安。

8、専門医・病院について(6件)

- 家の近くに専門医がない。
- 病院は在宅を進めるが、地域のドクターは往診には来てくれない。

9、その他(4件)

- ヘルパーや訪問看護師の不足を解消してほしい。
- 安心して遊べる場所が欲しい。
- 医療と福祉・教育の対等な連携が必要。（医療が主導では、本人の社会生活の質が低下する）
- 公共施設でのおむつ交換が大変。
- 手術や受診の際に、兄弟児の受け入れ先がない。